エコアクション 21 環境経営レポート 第 12 版

対象期間:令和4年10月~令和5年9月



令和 4 年度竣工写真

レポート作成日: 令和5年11月30日

株式会社 宝建設

(関連事業所:株式会社 共宝クリーン)

企業情報

(1)事業社名及び代表者名

株式会社 宝建設

代表取締役 吉岡 正芳

株式会社 共宝クリーン

代表取締役 吉岡 正芳

※平成30年8月1日子会社化

上記の2か所が対象範囲(認証・登録範囲)

以下㈱宝建設、㈱共宝クリーンと記載

(2)法人設立年月日

昭和 29 年 11 月 4 日

(平成 30 年 7 月 31 日 新設分割)

(3)資本金

(株) 宝建設 4,000 万円

(株) 共宝クリーン 100 万円

(4)事業規模(令和4年度)

	㈱宝建設	㈱共宝クリーン
売上高	730,705千円	64,701千円
事業年度	8月1日~7月31日	7月1日~6月30日
従業員数	14名 (現場代理人8名)	4名
延べ床面積(事務所)	1, 000m²	5 0 m²

(5)事業内容

• ㈱宝建設

特定建設業

十木工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業

産業廃棄物収集運搬業(以下許可品目)

金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、廃プラスチック類(これらのうち石綿含有産業廃棄物、自動車破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く)

・㈱共宝クリーン(中間処理場)

産業廃棄物の中間処理業

金属くず(がれき類等に付着するものに限る。)、コンクリートくず、がれき類(これらのうち石綿含有産業廃棄物、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)

目 次

1.	会社	t概	要	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3^	~4	ペ	— <u>\$</u>	,
2.	施討	设等	の	状	況	•	-	•	•	•	•	•	-	•	•	•	•	5 ·	ペ-	-\$	>	
3.	中間	『 処	理	施	設	の	能	力	等	•	•	•	•	•	•	•	•	6	ペ-	-\$,	
4.	処理	実	績	•	•	•	•	•	•	•	•	•	-	•	•	•	•	7 ·	ペ-	-\$,	
5.	環境		営	方	針	•	•	•	•	•	•	•	-	•	•	•	•	8	ペ-	-\$,	
6.	推進	℄体	制	•	•	•	-	•	•	•	•		-	•	•	•	•	9 ·	ぺ-	-\$	>	
7.	環境	ê 経	営	目	標	•	-	•	•	•	•		•	•	•	•	•	10	~	11	ペ-	-ジ
8.	主な	ټ	境	経	営	計	画	及	ぴ	実	施	状	況	•		•	•	12	<u>۱</u> م	:—	ジ	
9.	取糺	且結	果	•	評	価	及	び	次	年	度	の	活	動	計	画	•	13	~	18	ペ-	-ジ
10.	環境	関	連	法	規	等	の	遵	守	状	況	•	•	•	•	•	•	19	~	21	~ -	-ジ
11.	その)他	活	動	状	況	•	•	•	•		•	•	•	•	•		22	!~ !	23	ペ-	-ジ
12	代月	去	1-	-	ス	≣亚	柵	بر	目	古	ı							24	. ~°	_	~ "	



1. 会社概要

(1)事業社名及び代表者名

株式会社 宝建設

代表取締役 吉岡 正芳

株式会社 共宝クリーン

代表取締役 吉岡 正芳

※平成30年8月1日子会社化

上記の2か所が対象範囲(認証・登録範囲)

以下㈱宝建設、㈱共宝クリーンと記載

(2)法人設立年月日

昭和 29 年 11 月 4 日

(平成 30 年 7 月 31 日 新設分割)

(3)資本金

(株) 宝建設 4,000 万円

(株共宝クリーン 100 万円

(4)事業規模(令和4年度)

	㈱宝建設	㈱共宝クリーン
売上高	730,705千円	64,701千円
事業年度	8月1日~7月31日	7月1日~6月30日
従業員数	14名 (現場代理人8名)	4名
延べ床面積(事務所)	1, 000m ²	5 0 m²

(5)事業内容

• ㈱宝建設

特定建設業

十木工事業、舗装工事業、水道施設工事業、解体工事業

産業廃棄物収集運搬業(以下許可品目)

金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、廃プラスチック類(これらのうち石綿含有産業廃棄物、自動車破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く)

・㈱共宝クリーン(中間処理場)

産業廃棄物の中間処理業

金属くず(がれき類等に付着するものに限る。)、コンクリートくず、がれき類(これらのうち石綿含有産業廃棄物、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)

(6)許可区分

• ㈱宝建設

建設業許可	登録番号	有効期限	業種区分
	知事許可		土木工事業・とび・
			土木工事業・石工事
45 1 18		令和 10 年 8 月 19 日	業・舗装工事業・しゅ
熊本県	(特-5)第 18596 号	节和10年8月19日	んせつ工事業・塗装工
			事業・水道施設工事・
			解体工事業
収集運搬	許可番号	許可年月日及び 許可の有効年月日	許可品目
		令和3年5月12日	廃プラスチック類・金
₩ 十 □	然 0.49010万円 100 日	174 6 7 6 7 12 H	属くず・ガラスくず、
熊本県	第 04301075590 号	 令和 8 年 5 月 9 日	コンクリートくず及び
			陶磁器くず・がれき類

・㈱共宝クリーン

施設の種類:破砕・分級 処理能力:264/日(8h)

保管施設:保管面積 2,335m2·保管量上限 4,828m3

処分業(中間処理)	許可番号	許可年月日及び 許可の有効年月日	許可品目
熊本市		 令和 5 年 9 月 7 日	金属くず(がれき類等に
	第 08121203492 号	(2023年)	付着するものに限る)・
		(2029 1)	ガラスくず・
		令和10年9月6日	コンクリートくず及び
		(2028年)	陶磁器くず・がれき類

(7)所在地等

㈱宝建設 本社(土木・建設業)

 $\mp 861-0106$

熊本県熊本市北区植木町豊田 630-1 TEL 096-272-3351 FAX 096-273-2207 (株共宝クリーン(産業廃棄物処理業)

₹861-0127

熊本県熊本市北区植木町亀甲堂附 660-1 TEL 096-273-3333 FAX 同左 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者

吉岡 正芳 TEL 096-272-3351 E-mail takara@k9.dion.ne.jp 環境事務局

田上 貴史 TEL 同上



2. 施設等の状況

(1)建設業の車両及び重機

4 t ダンプ熊本100そ72114 t ユニック熊本100す33212 t ダンプ熊本400ち5564乗 用 車熊本501ほ3775

熊本480と7197・熊本480と6893

熊本41む7806

軽トラック 熊本480く9192・熊本480つ2361

※令和 3 年 2 月に 4t ダンプの入れ替えを行った。平成 27 年度燃費基準 10%向上車 ※令和 4 年 4 月より電気自動車を導入した。

(2)産業廃棄物収集運搬業用の車両(建設業用の車両と兼用)

4 t ダンプ熊本100そ72112 t ダンプ熊本400ち5564

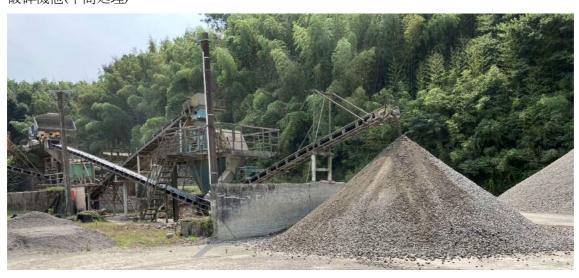
(3)中間処理施設内の機器

破砕機・篩い器	各1	台
ベルトコンベアー	3	台
0.7 m ³ バックホウ	2	台
0.1 m ³ バックホウ	1	台
ショベルローダー	1	台

※令和3年1月に0.7 m[®](環境に配慮した)1台入れ替えを行った。

特定特殊自動車排ガス 2014 年基準適合車・燃料消費量 6%低減・超低騒音型建 設機械

破砕機他(中間処理)





3. 中間処理施設の能力等

● ㈱共宝クリーン

事業の区分:中間処理(破砕)

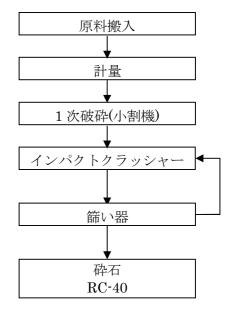
設置場所:熊本市北区植木町亀甲堂附

660番地1外6筆

設置年月日:平成13年1月31日

産業廃棄物の種類: がれき類(金属くず、

ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず)



※平成31年3月より電子マニフェストへの対応

● 中間処理料金

令和2年4月現在

コンクリートがら (無筋)1,200 円/ tコンクリートがら (有筋)1,800 円/ t二次製品 (U字溝)3,000 円/ tアスファルトがら1,000 円/ tRC-40(再生クラッシャラン)1,000 円/ t

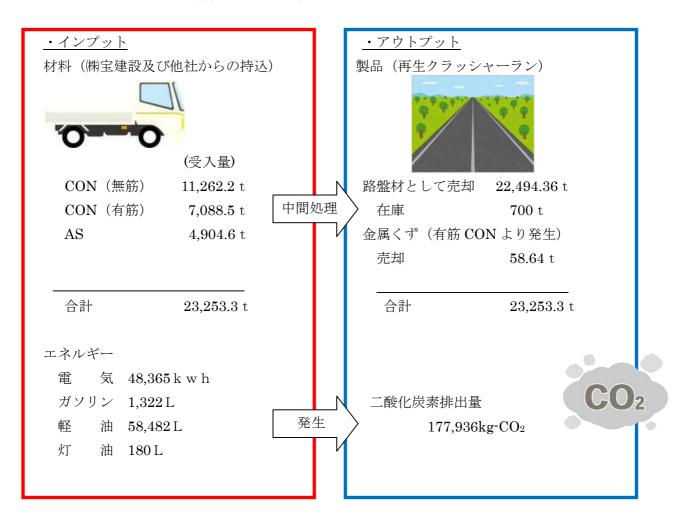


4. 処理実績

(1)産業廃棄物処理実績 (㈱共宝クリーン)

	㈱宝建設持込分	他社持込分	合計
CON (無筋)	362.2 t	10,900 t	11,262.2 t
CON (有筋)	9.14 t	7,078.36 t	7,087.5 t
AS	373.81 t	4,529.79 t	4,903.6 t
合計	745.15 t	22,508.15t	23,253.3 t

(3)マテリアルバランス (㈱共宝クリーン)





5. 環境経営方針

株式会社 宝建設・株式会社 共宝クリーンは、土木工事・産業廃棄物の中間処理事業を通じて、環境の保全と循環型社会の形成に資するため、環境負荷の継続的低減、産業廃棄物の適正処理とリサイクルを継続的に推進し、全社一丸となって、環境保全活動に努めます。

<環境経営への活動方針>

- 1. 具体的には次のことに取り組みます。
 - ① 建設業においては、環境配慮した工事に努めます。
 - ② 技術提案、作業効率の向上等により工期短縮・工事点数アップ・二酸化炭素削減を目指します。
 - ③ ロス・ミスを減らし無駄な経費を削減します。
 - ④ 若手技術者の育成を積極的に行います。
 - ⑤ 電力・燃料等の削減により二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
 - ⑥ 産業廃棄物における受け入れ産業廃棄物の再生利用率の向上に努めます。
 - ⑦節水に取り組みます。
 - ⑧ グリーン購入を推進します。

これらについて環境経営目標・活動目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます

- 2. 環境関連法規制等や当社が約束したことを順守します。
- 3. この環境経営方針を達成するため本方針を全従業員に周知します。

制定日:平成23年 9月 30 日

改定記録

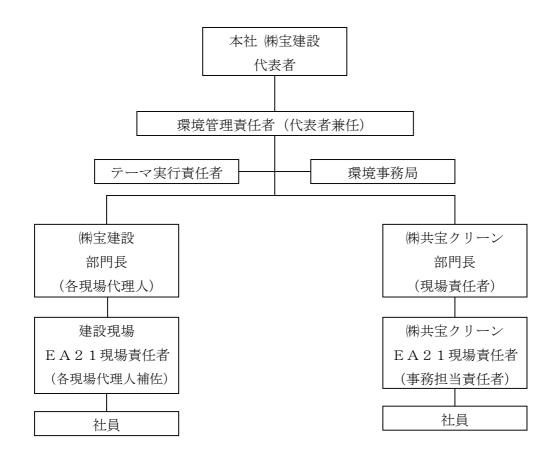
平成 23 年 9 月 30 日 制定 平成 28 年 7 月 4 日 代表者変更 平成 31 年 2 月 21 日 名称変更、改定

(株)宝建設・(株)共宝クリーン

代表取纬役 吉周 正芳



6. 推進体制



役職	役割・責任・権限
代表取締役	全体総括、環境経営方針設定、全体評価と見直し環境管理責任者の任命、環境活動に必要な資源の確保
環境管理責任者	全体の把握及び環境マネジメントシステムの構築と運用
テーマ実行責任者	テーマの目標達成に向けた推進役 目標に対する実績の把握問題点の抽出及び原因の探求、追及対策の立案テーマに関連する社員への啓蒙
環境事務局	EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 電力・燃料等の管理 社長への状況報告
社員	環境活動の推進



7. 環境経営目標

当社における令和4年10月から令和5年9月までの実績を環境への負荷の自己チェックを基に把握し、令和5年度から3年間の環境経営目標を下記のとおりに設定している。またこの目標は、平成23年10月より引き続き環境活動に取り組んでいる。

【 ㈱宝建設 目標 (㈱宝建設 事務所・現場) 】

()内は事務所の数値

項目	単位	R4 年度 R4.10~R5.9	R5 年度 R5.10~R6.9	R6 年度 R6.10~R7.9	R7 年度 R7.10~R8.9
一本小、巴士亚小子	k g -	126,128	前年度実績比	前年度実績比	前年度実績比
二酸化炭素削減	CO_2	(17,925)	1%削減	1%削減	1%削減
消費電力低減	kWh	41,366	前年度実績比	前年度実績比	前年度実績比
何其 电刀似例	KWN	(34,205)	1%削減	1%削減	1%削減
燃料の低減	Q.	42,315.6	前年度実績比	前年度実績比	前年度実績比
深い个イックルムが、	V.	(1,341.25)	1%削減	1%削減	1%削減
産業廃棄物のリサイ		リサイクル率	リサイクル率	リサイクル率	リサイクル率
クル化の促進		100%	100%	100%	100%
節水		節水実施率	節水実施率	節水実施率	節水実施率
以以		100%	100%	100%	100%
グリーン購入の推進		グリーン購入	グリーン購入	グリーン購入	グリーン購入
クリーン 解八の正定		2 件/月	2 件/月	2 件/月	2 件/月
環境配慮した工事の		環境配慮した	環境配慮した	環境配慮した	環境配慮した
実施		工事率 100%	工事率 100%	工事率 100%	工事率 100%
工事点数アップ		達成率 100%	1工事に創意	1工事に創意	1 工事に創意
工事点数とソク		建 成平 100 /6	工夫3件以上	工夫3件以上	工夫3件以上
			3S (整理・整頓・	3S (整理·整頓·	3S(整理・整
ミス・ロスの削減	_	実施率 100%	清掃)活動	清掃)活動	頓・清掃)活動
			実施率 100%	実施率 100%	実施率 100%

※水の使用については、井戸水を利用しており明確な数値目標が立てられないが適切な使用を心がけている。 ※PRTR法にかかわる化学物質はない。

※燃料はガソリン、軽油、灯油の合計値である。(LPG 除く)

※環境経営目標の二酸化炭素排出量は、電気と燃料の二酸化炭素排出量を消費電力及び使用燃料の合算により二酸化炭素排出量を算出している。また二酸化炭素排出量は、令和 2 年度調整後排出係数(0.433kg-CO2/kWh)を利用し計算をおこなっている。(令和5年度まで使用する。)

【 ㈱共宝クリーン 目標 】

項目	単位	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7年度
以 口	半世	R4.10~R5.9	R5.10~R6.9	R6.10~R7.9	R7.10~R8.9
二酸化炭素排出量削減	k g —	177.026	前年度実績比	前年度実績比	前年度実績比
<u>一</u>	CO_2	177,936	1%削減	1%削減	1%削減
消費電力低減	kWh	40.965	前年度実績比	前年度実績比	前年度実績比
· 相負 电 / 心 / 似 / 似	KWN	48,365	1%削減	1%削減	1%削減
燃料の低減	Q.	E0 000 07	前年度実績比	前年度実績比	前年度実績比
次六十十十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八十八	V.	59,983.67	1%削減	1%削減	1%削減
産業廃棄物のリサイ		リサイクル率	リサイクル率	リサイクル率	リサイクル率
クル化の促進		100%	100%	100%	100%
節水		節水実施率	節水実施率	節水実施率	節水実施率
以小		100%	100%	100%	100%

[※]二酸化炭素排出量は、目標としている電気と燃料によるもののみを計上している。(LPG 除く)



[※]現場で使用する水に関しては明確な数値目標を立てるのが難しいため適切な使用を心がけている。

[※]建設リサイクル法に基づく3種についてリサイクル率100%とし、その他廃棄物に関しては適宜適正に処分を行う。

^{※㈱}共宝クリーンの物品の購入は㈱宝建設にて行うため、グリーン購入は㈱宝建設に含んでいる。

[※]二酸化炭素排出量は、目標としている電気と燃料によるもののみを計上している。(LPG 除く)

8. 主な環境経営計画及び実施状況

実施状況に関しては、各項目の実行責任者にヒヤリングを行い評価した。 下記の取組結果に応じて活動計画の項目追加を行う。

16日		評価		供老
項目	事務所	共宝	現場	備考
①二酸化炭素排出量削減(対象:全社 · 期間:通年)			
消費電力の低減・燃料の削減	0	0	0	
②消費電力の低減(対象:全社 ・ 期間:通年)				
エアコンの設定温度を作業環境に応じ適切な温度	Δ	0	Δ	
設定を行う。			_	
スイッチオンオフによる待機電力の削減	0	0	Δ	
事務所・現場事務所による照明の間引き	0	0	Δ	
クールビズ・ウォームビズの徹底	Δ	Δ	Δ	
③燃料の削減(対象:全社・期間:通年)			I	
急発・進急加速の禁止	0	0	0	
エンジンブレーキの積極活用	0	0	Δ	
休憩時のアイドリングストップの徹底	0	Δ	Δ	
定期的な車の点検(空気圧の点検等)	0	Δ	Δ	
公共交通機関の積極利用				次回より評価
④産業廃棄物のリサイクル化促進(対象:全社・期	間:通年)		
産業廃棄物の分別・リサイクル化の促進	0	0	0	
⑤節水(対象:全社 · 期間:通年)				
節水を心がけるように張り紙をする	0	0	_	
食器等はつけおき洗いを行う	0	_	_	
節水をするように声掛け	0	Δ	Δ	
⑥グリーン購入(対象:本社・土木事業部・期間:	通年)			
消耗品等の購入についてはグリーン購入の検討	0	_	_	事務所で購入
⑦環境配慮した工事の実施(対象:本社・土木事業部	 期間 	:通年)		
再生クラッシャランなどのグリーン資材の利用	_	_	0	
エコドライブの実施・省燃費運転の実施	0	_	Δ	
現場までの移動時の乗り合いの実施			Δ	
整理整頓を行い材料等の無駄をなくす	0		0	
環境配慮型の建設機械の使用の検討		_	0	

※評価基準 \bigcirc 実施をしていた \triangle どちらかといえば実施をしていた \times より活動を進めるべき



9. 取り組み結果・評価及び次年度の活動計画

● 取り組み結果

評価は、目標に対しての達成を ○ 良好(目標以上を達成)・<mark>△</mark> やや不足(85%以上達成)・<mark>×</mark>不適合(85%未満)として表記している。

【 ㈱宝建設 事務所・現場】

()内は事務所の数値

項目	単位	R3.10~R4.9	R4.10	~R5.9	達成率	評価	
以 日	<u>早</u> 1业	前年度実績	環境経営目標	実績	建 成學	рΤΎЩ	
二酸化炭素排出量削減	kg - Co ₂	75,097	74,346	126,128	<mark>60%</mark>	×	
一致恒火条铲山里的枫	ng CO2	(16,085)	(15,924)	(17,925)	(89%)	(△)	
電気使用量の低減	kwh	42,962	42,532	41,366	103%	0	
电风灰川重り区域	KWII	(32,835)	(32,507)	(34,205)	(95%)	(△)	
燃料使用の低減	L	$24,\!274.35$	24,032	42,315.6	<mark>57%</mark>	×	
然付使用の区域		(1,982.02)	(1,962)	(1,737.25)	(113%)	(0)	
産業廃棄物リサイクル化	%	100	100	100	100%	0	
促進	70	100	100	100	100%		
節水実施率	%	100	100	100	100%	0	
グリーン購入の促進	件	47	24	38	100%	0	
環境配慮した工事実施率	%	100	100	100	100%	0	

【 ㈱共宝クリーン 】

话日	単位	R3.10~R4.9	R4.10~R5.9		本代本	評価
項目	十7年	前年度実績	環境経営目標	実績	達成率	
二酸化炭素排出量削減	kg - Co ₂	178,398	176,614	177,936	<mark>99.3%</mark>	Δ
電気使用量の低減	kwh	42,323	41,900	48,365	<mark>87%</mark>	Δ
燃料使用の低減	L	62,589.36	61,963	59,983.67	103%	0
産業廃棄物リサイクル化促進	%	100	100	100	100%	0
節水実施率	%	100	100	100	100%	0

● 原単位による分析及び評価

年間工事の完成工事高を二酸化炭素排出量等で割り二酸化炭素 1t 排出した当たりの完成工事高を計算した。

また、㈱共宝クリーンにおいては、二酸化炭素排出量等を年間の中間処理量、売上高で割り中間処理量 1t あたり、売上千円あたりの二酸化炭素排出量等を計算した。

㈱宝建設は、施工件数、完成工事高はともに昨年と同水準だった。また今年度は受注した道路改良工事を一部自社施工したためその分軽油の使用量が多くなり、数値が悪化した。 (前年施工件数 5.5 件に対し、本年度施工件数 5.4 件、前年度売上 729,335 千円に対し、本年度売上 730,305 千円)

㈱共宝クリーンにおいては処理量が減少し、売り上げは増加した。処理量の減少は従業員の退職の影響。売り上げの増加要因は㈱宝建設の道路改良の現場にて㈱共宝クリーンにて製造した再生砂を盛土に使用したため。

【㈱宝建設】

(完成工事高)

項目	単位	前年度実績(令和3年度)	本年度実績(令和4年度)	結果	評価
	工事高 (千円)	729,335	730,305		
二酸化炭素排出量削減	Kg-Co ₂	75,097	126,128	<mark>60%</mark>	×
	工事高 (千円) / Kg-Co2	9,712 円	5,790 円		
電気使用量の低減	工事高(千円)	729,335	730,305		0
	Kwh	42,962	41,366	104%	
	工事高(千円)/Kwh	16,976 円	17,655 円		
燃料使用の低減	工事高(千円)	729,335	730,305		
	L	22,123	42,316	<mark>57%</mark>	×
	工事高(千円) /L	30,046 円	17,258 円		

※工事高は10月~9月にて計算

【㈱共宝クリーン】

(処理量)

項目	単位	前年度実績 (令和3年度)	本年度実績 (令和4年度)	結果	評価
	$kg-Co_2$	178,398	177,936		
二酸化炭素排出量削減	処理量(t)	27,418	23,253	<mark>85%</mark>	
	kg-Co ₂ /処理量(t)	6.5066	7.6521		
電気使用量の低減	Kwh	42,323	48,365		×
	処理量(t)	27,418	23,253	74%	
	Kwh/処理量(t)	1.5436	2.07994		
燃料使用の低減	L	62,589	59,984		
	処理量(t)	27,418	23,253	<mark>88%</mark>	
	L/処理量(t)	2.2827	2.5796		

※処理量は販売量及び在庫量

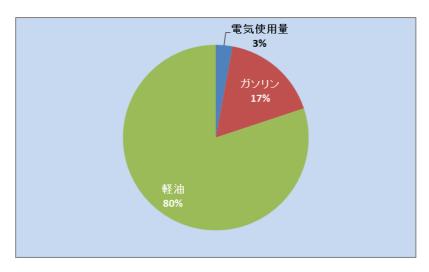
(売上高)

項目	単位	前年度実績 (令和3年度)	本年度実績 (令和4年度)	結果	評価
	kg — Co2	178,398	177,936		
二酸化炭素排出量削減	売上高(千円)	55,891	62,278	112%	0
	kg-Co ₂ /売上高 (千円)	3.19	2.86		
	Kwh	42,323	48,365		
電気使用量の低減	売上高(千円)	55,891	62,278	<mark>98%</mark>	
	Kwh/売上高 (千円)	0.7572	0.7765		
燃料使用の低減	L	62,589	59,984		
	売上高(千円)	55,891	62,278	116%	0
	L/売上高 (千円)	1.1198	0.9632		

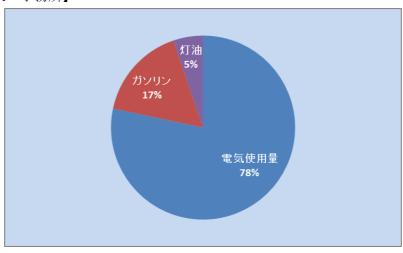
※売上高は10月~9月にて計算

● 場所別二酸化炭素発生要因

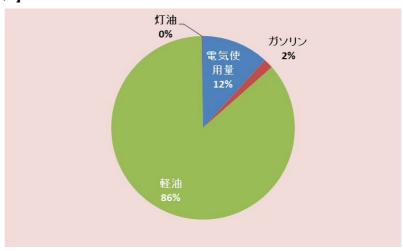
【㈱宝建設・現場】



【㈱宝建設・事務所】



【㈱共宝クリーン】



● 取り組み結果の評価及び次年度の取り組み

① 二酸化炭素排出量削減

目標達成率 60% (89%) 99.3% (共宝クリーン)

㈱宝建設は前年度の二酸化炭素排出量と比較し大きく増加した。㈱共宝クリーンは昨年度と同程度で目標の達成には至らなかった。次年度の取り組みは下記の電気使用量の削減及び燃料使用量の削減に記載する。

② 電気使用量の削減

目標達成率 103% (95%) 87% (共宝クリーン)

㈱宝建設は削減目標にを達成、原単位においては昨年と同水準となった。㈱共宝クリーンは、昨年よりやや電気使用料が増加し目標達成には至らなかった。㈱宝建設においては道路改良の現場において工期の関係で残業や休日出勤が多くなり現場事務所の電気使用量が増えた。

㈱共宝クリーンにおいては、再生クラッシャランの需要にこたえるためがれきの小割 を残業行った。その際の照明で電気使用量が増加した。

昨年と同様の手段に加え、今後は働き方改革への対応を含め週休 2 日の推進を進めそれに伴う電気使用量の削減を行う。

③ 燃料使用量の削減

目標達成率 57% (113%) 111% (共宝クリーン)

㈱宝建設は、前年より大きく使用量が増えた。㈱共宝クリーンは、目標達成することができた。

事務所においては、研修の際に公共交通機関を使うなど削減につながり目標達成に至った。 本年度は、道路改良の現場で一部自社施工を行い重機用に多くの軽油をしたため目標達成に 至らなかった。本年度の現場における二酸化炭素の発生要因と昨年度のものと比べると前年 度は53%が軽油を占めているのに対し、本年度は80%を占めている。このように現場の事 情や前年度との状況の違い等で目標の達成率が大きく変わるが今後も同様の手段を用いて 目標達成に向け努力を続ける。

共宝クリーンにおいては、令和3年1月に0.7m3バックホウの入れ替えを行ったことが 影響し、燃料削減につながったものと思われる。

今後も同様の手段を用いて目標達成に向け努力を続ける。

④ 産業廃棄物リサイクル化の促進 目標達成率 100% 100% (共宝クリーン)

㈱共宝クリーンにてがれきの中間処理を行っており、がれき類については㈱共宝クリーンで中間処理を行いリサイクル化した。また、その他の産業廃棄物についても、処分許可を持

つ業者に処理委託し、産業廃棄物リサイクル率 100%を達成した。

前年より追加した活動の整理整頓の呼びかけより材料、産業廃棄物の無駄が少し減った。 今後も同様の手段を用いて目標達成に向け努力を続ける。

⑤ 節水の実施 目標達成率 100% (100%) 100% (共宝クリーン)

井戸水を使用しているために数値は出すことはできないが、張り紙や、つけおき洗いなど の活動により節水につながったと思う。今後も節水を心がけるように声掛けを行う。

⑥ グリーン購入 目標達成率 100%

文具品、消耗品を購入するときは環境に配慮されているものを優先的に購入した。 今後もグリーン購入を検討し、目標達成していきたい。

⑦ 環境配慮した工事の実施 目標達成率 100%

㈱共宝クリーンで再生クラッシャランを扱っていることもあり、積極的に購入、利用できた。また過剰な材料の発注等をがないように心がけ現場管理、事務用品の購入を本社事務所にて購入することにより無駄を減らした。

現場事務所でもごみの分別を行う、油流出時の備品準備などの活動を行った。 今後ともこの活動を続ける。

● 次年度の活動目標値

	277.11	次年度目標値			
項目	単位	㈱宝建設	㈱共宝クリーン		
二酸化炭素排出量削減	kg —	124,867	176,157		
——故心 <u>火</u> 杀孙山里的 <u>枫</u>	Co_2	(17,746)	170,137		
電気使用量の低減	kwh	40,952	47,881		
电风灰用重砂风阀	KWII	(33,863)	47,001		
燃料使用の低減	L	41,893	59,384		
然行文用 V LAM	L	(1,720)	59,564		
産業廃棄物リサイクル化促進	%	100	100		
節水実施率	%	100	100		
グリーン購入の促進	件	2 件/月	_		
環境配慮した工事実施率	%	100	_		

※数値目標は、前年比1%削減した値である。

※節水実施率は、年度末に従業員に節水に関するヒヤリングを実施、その結果を目標としている



10. 環境関連法規等の遵守状況

※更新審査時に最新版管理及び法令順守は、同時に実施する

		評価日:R5.9.30	評価者	:吉岡 正芳
適用法規	該当施設	法規の要求事項	評価	備考
水質汚濁防止法	貯油施設 (エンジン オイルドラム缶)河川工事	事故時の届出	_	全社
騒音規制法· 熊本県生活環境保全条例	破砕機・分級機 特定建設作業	特定施設の届出(破砕・分級機) 事前届出 敷地境界線上基準の順守 特定建設作業実施届の提出	0	全社
	アスファルトがら コンクリートがら、 コンクリートくず ・金属くず、木くず、	保管場所表示・保管基準の厳守(保管面積 2,335m2、保管量上限 4,828m3・看板の大きさ縦 60 cm×横 60 cm以上)	0	㈱共宝クリーン
	廃プラ	運搬・処分業者との委託契約 (2 者契約、書面による契約、許 可証等の写し、5 年間保存)	0	全社
		マニフェストの交付・回収 (5年間保存)	0	全社
京女 业 加加刀 200年4月)2月日		マニフェストの交付状況の報告 (毎年 6 月末までに熊本市へ報告)	0	㈱宝建設
廃棄物処理及び清掃に関する法律		自社運搬の場合運搬車両であることの表示・マニフェストの携帯・自社運搬の場合 産業廃棄物収集運搬車(5 c m 以上)及び会社名(3 c m以上)を記載。 携帯しなければならない書類・氏名又は名称及び住所・運搬する産業廃棄物の種類、数量・運搬する産業廃棄物を積載した日・積載した事業所の名称、所在地、	0	㈱宝建設

		Neste the		
		連絡先		
		・運搬先の事業所の名称、所在地、		
		連絡先を記載した書類		
		・委託を受けて運搬する場合		
		自社運搬の場合の 2 つに加え		
		許可番号(下 6 ケタ)を 3 c m以上		
		の文字で記載すること。		
		見やすく、両面に表示すること。		
		携帯しなければならない書類		
		マニフェスト		
		許可証の写し		
		・法人役員変更の届出の際、登		㈱宝建設
		記事項証明書の追加		令和3年3月24
		登記事項証明書の添付を要す	_	日追記
		る場合は30日以内の提出		
		・車両の変更時は10日以内		
		産業廃棄物処分業許可、産業廃		㈱共宝クリーン
		棄物収集運搬業許可、	0	
		廃棄物再生事業者登録証明書		
		収集運搬業者及び処分業者の許		全社
		可区分・許可期限の確認		
-1 - 1	トラックスケール	トラックスケール法定検査		㈱共宝クリーン
計量法		(2年に1回)	_	
Value 1 and a superior and a superio	パソコン等	長期使用、再生資源の努力義務、		全社
資源有効利用促進法 		適正処理	_	
74 7H 33 33 33 34	建設指定副産物	工事着手の7日前までに分別解		全社
建設リサイクル法		体等の計画書の届出		
	テレビ、エアコン、	買換時リサイクル料負担、適正		全社
家電リサイクル法	冷蔵庫、洗濯機	処理	_	
	自家用車4台	車検時、買い替え時リサイクル		全社
自動車リサイクル法		量負担・適正処理	_	
	業務用エアコン	回収・運搬・破壊に要する料金		
フロン排出抑制法		の支払い、適正処理	_	
		委託確認書、引取証明書の保存		全社
		(3年間)	0	
				<u> </u>

		・7.5 k w以上 50 k w未満の場合	•	全社
		3年に1回以上の定期点検		
		・50 k w以上の場合		その他のエアコ
		1年に1回以上の定期点検	\bigcirc	ンに該当(2 台)
		・その他		
		3か月に1回以上の簡易点検の		
		実施		
	危険物地下貯蔵所	屋内・外貯蔵所の届出		㈱宝建設
	(ガソリン 4,000L,	取扱責任者の選任・届出		
	軽油 6,000 L)	保管管理基準の順守		地下タンク定期
		地下タンク改修(平成22年6月改		点検実施
消防法		正)	0	令和5年12月4日
		(埋設後 40~50 年を超えたタン		
		クは油漏れを防ぐための対策を		
		行うこと。)		
		11 / /		
		3年に一度点検		

(1) 環境関連法規の遵守及ぶその違反の有無

環境規制の遵守活動を行い、その遵守評価を行った結果、遵守しており環境関連法規への違反はなかった。

(2) 指摘、訴訟の有無

環境規制法の遵守活動を通じて、過去 3 年間にわたり、関係当局より違反等の指摘はなかった。また苦情は、2 件発生したが適切に対応を行った。訴訟についてなかった。



11. その他活動状況

(1) 熊本市道路ふれあい美化ボランティア (県道 199 号線の清掃) 【位置図】



【活動写真】



(2) マイリバーサポート(豊田川両岸の清掃)

【位置図】



【活動写真】





12. 代表者による評価と見直し

今回全社をあげてエコアクション 21 に取り組み、㈱宝建設においては、燃料使用量の削減が未達により二酸化炭素削減も未達となった。㈱共宝クリーンにおいては、電気使用量の削減が未達により二酸化炭素削減も未達となった。

㈱宝建設においては、令和4年10月に太陽光発電を事務所の倉庫にて実施したことにより削減することができた。また、燃料においては自社施工で重機作業行ったことにより、 軽油の使用量が非常に増えたことにより未達となった。

評価は、受注工事による影響を受けるが、3か月ごとの目標の達成状況の周知の徹底を行うことにより環境へ意識を高めてもらう。

また㈱共宝クリーンにおいては昨年に比べ残業時間が増え、照明に使用する電気使用量が増えた。

今後は無駄な照明を使わない等を現在の活動に加えて行う。

苦情は、2 件発生したが適切に対応し、法の遵守も出来ていたので、今後も法の遵守の精神を持ち続けたい。

環境経営方針、環境経営目標、環境経営システム、推進体制の見直しについては、必要ないと思われる。今後とも環境マネジメントシステムの運用の定着に努めて環境にやさしい活動を続けて行きたいと考えている。

今後とも二酸化炭素排出削減等の目標達成のために社員一同一丸となって努力をしていきたいと思う。

令和5年11月30日

(株)宝建設・(株)共宝クリーン

代表取纬役 吉周 正芳

